

平成27年度 第1回 磐田市歴史文書館運営審議会

日時 平成27年8月4日(水) 10:00~11:33

場所 磐田市竜洋支所 2階 会議室

出席者 市歴史文書館運営審議会委員 5名

小杉副会長 高橋委員 鈴木潔委員 市川委員 杉浦委員

出席職員 教育委員会教育部職員 8名

村松教育長、秋野教育部長、

大箸課長、飯田館長、山室副主任、五島囑託、名倉囑託、松本囑託

傍聴人 なし

議事 1. 報告事項

(1)非現用公文書等の移管選別状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

現状の文書の収容状況はまだ余裕があるのか、もうすぐ満杯になるのか。中央図書館にも古文書等があると思うが、すみ分けはどうなっているか。

(回答) 収蔵庫の状況は、竜洋支所3階は満杯に近い状況である。中央図書館とのすみ分けの関係は、刊行物は基本的に図書館で、古文書等は文書館になっている。

もうすぐ3階が満杯との答えだったが、その対応策は。中央図書館にも古い書籍があると思う。こちらに移すという考えはあるか。

(回答) 収蔵庫の状況が満杯に近いとお答えしたが、今後の文書搬入は、倉庫から大量に文書館に搬入される特殊要因はなくなるため、少なくなると思われる。職員の選別眼のレベルが上り、選別数も増えている。また27年度から電子決裁になり、書類での決裁は部長決裁以上のみとなり、それ以外のものは基本的に電子決裁となり、減る状況もある。支所との間をやり繰りする事で、何とか対応できればと考えている。

歴史文書館にあるものは中央図書館に置いたほうがよいのでは。また、中央図書館の古文書は歴史文書館の方がよいのではないか。そんなことが今までにあったか。

(回答) 書籍に関しては、中央図書館からいただいたことがあった。

(2)平成26年度後期(第14回)企画展について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

歴史文書館の入館者は開館33日間で352人、中央図書館は9日間で563人で、中央図書館の威力はすごいと思う。中央図書館では、場所がら、一度は開催しないといけないと感じる。歴史ウォークは32人の参加とのことだが、内容等はどうか。

(回答) 津倉邸の開放も含め好評だったと思う。

(3)レファレンス利用状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

レファレンス「津波による被害がどの程度になるか、関連する過去の資料を見たい」には、どのように答えたか。

(回答) 竜洋の一代記の中に出てくる津波の状況や、過去の事例を紹介した。

竜洋の津波の高さや、福田の資料などもあったか。

(回答) 駒場自治会資料、石川滝蔵さんの実体験を書かれた内容の資料を紹介した。

(4)地域資料の受入れ整理状況について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

松井さんから神風特攻隊関係の資料寄贈があるが、これを郷土資料館で展示しているのか。

(回答) 郷土資料館で、山内文夫さん関係の資料を展示している。家族に宛てた遺書などを展示している。

今年70周年で戦争関係のものの展示について、市内への広報はしているか。

(回答) 毎年、総務課が企画している広島・長崎の被爆写真展に合わせて、今年度初めて文化財課として、文書館として企画に参画した。「戦争の時代と磐田の人々」のテーマで、地域の戦争に関わる話題を提供し、被爆パネル展と並行して、中央図書館、なぎの木会館、中学校などで計画的に巡回パネル展を実施していく。

古文書などを広報で「捨てないで、こちらに持って来てください」というお知らせを載せたらどうか。

(回答) 2、3年ほど前に、そういうことを行った。年度内発行の歴史文書館だより、福田町史だより等でお知らせしていければと思っている。

いかに守り、保存していくか、いろいろ工夫をして市民の皆さんから記録を集めてほしい。

(5)古文書解読上級講座について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

古文書解読上級講座受講者が、歴史文書館資料集を作成し公開するのは、非常にありがたい。古文書を書き入れて、読み下しを左に入れるという形にするのか、活字だけ載せるのか。

(回答) 受講生が原稿用紙に筆耕したものを、事務局がパソコンに入力し、最後に解説を入れ、資料集として文書館の図書室等に配架したいと考えている。古文書の原文の掲載は考えていない。

解読が目的なら、「原本があり、解読したものが載せてあり、照らし合わせて見る」ことでないと勉強にならない。

(回答) 意見を頂いたので、事務局でもう一度検討する。

参考になるのは、竜洋図書館の「緋古」である。いろいろな面から検討いただければと思う。

上級が25名だが、初級・中級も続いているのか。

(回答) 今年度は、上級講座のみである。

(6) 福田町史編さん事業について (事業の進捗状況 福田町史編さん事業講演会
シンポジウム)

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

コラムを書いたが、他にもコラムは入るか。

(回答) コラムは、委員を含めて三人にお願いしている。

以前出た資料編と近世・近現代と、今回の通史編を合わせて費用はどのくらいかかるか。

(回答) 今回は約 400 万円強の印刷費である。資料編は、手元に資料がないのでわからない。

DVDも合わせての金額なのか。

(回答) そうである。DVDは、通史編の中に入っている内容の全てを入れて発行する。

今、希望者の需要は増えているのか。

(回答) 山本編さん専門委員長からの意向もあり、検討した結果、DVDも発刊することとなった。

値段は、冊子と同じか、安くなるか。

(回答) 正式には決まっていないが、DVDの方が安くなると思う。

2. 協議事項

(1) 企画展について (平成 27 年度後期 (第 16 回) 企画展テーマ「磐田と家康 (仮題)」
平成 28 年度前期 (第 17 回) 企画展テーマ「光明電鉄 (仮題)」)

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕

第 16 回企画展の展示物の内容について、文書類が多いが、物として残っているものに、中泉御殿の門や八幡宮がある。また、代官所の跡や見付、三ヶ野、一言坂の戦い跡もあるので、見学会などをしたらどうか。

第 16 回企画展には、今までの流れから「宿場と磐田」を先に行い、その後「光明電鉄」としたらどうか。

天浜線の豊岡から二俣間は、光明電鉄の電車道が奇跡的に残り、トンネルもそのまま全部使っているが、みんな知らないという状況であるので、企画していただけるのはありがたい。

磐田における家康の行動を紹介するのであれば、「家康と磐田」より「磐田と家康」にしたらどうか。

光明電鉄だけでなく、池田へ行っていた線(人車)はどうか。資料も残っている。

光明電鉄は磐田駅から見付を通過して現実には二俣高校の前まで、本当は船明ダムまで行く予定だった。直之前会長が一生懸命調査され、一冊の本を作られた。また、磐田西高校が報告書を作った。ただ、東海道も面白いと思う。

第17回企画展のテーマは、資料収集する段階で、事務局が考えればよいと思う。事務局にお任せする。

3. その他

〔委員からの意見〕

向笠史談会が東南海地震について調査に来たが、東南海地震のことは、全部真っ黒に塗ったものしか見せてもらえない。これでは研究にならない。人の名前イコール個人情報になると、文書館での研究は出来るが地域の人たちが調査できない。いわゆる在野の研究者にすると困る。職員が調査したり研究したりすることも大事だが、市民の中で地元のことを研究したい人に対し、もう少し寛大な対応ができないか。時と場合、状況というものを考えて、「文書館としてどうなのか」「この程度まで出してもいい」「こういう条件ならいいな」など、担当者の「これはダメ」や「これいい」ではなく、文書館として文化財課として、そのときに応じた考えをしていただけたらと思う。ぜひ、考えていただきたい。

公文書を保管する目的は、公開以外の理由はないと思う。

(回答) 管理運営要領の中に、公開の基準、公開資料・非公開資料について規定されている。その中に、「個人のプライバシーに関する情報が含まれるもの」「原資料所有者の許可を得ていないもの、または閲覧に供しない旨の条件が付されたもの」「閲覧することで当該法人等または当該個人の名誉等を汚す恐れがあるもの、または不利益を与える恐れがあるもの」などがある。個人のプライバシーに関するものが入っている、含まれていれば、非公開とも読めるが、当該法人等または当該個人の名誉を汚す恐れがない、または不利益を与える恐れがないという資料については、今後、情報公開制度等も関係があり、関係部署と協議相談をしながら、運営要領の改正も視野に入れて検討を進め、この運営審議会に諮りたい。

東南海地震の時、向笠の場合は磐田郡の中で今井、旧今井村に続いて被害が大きい。当時向笠は351戸、そのうち住宅の全半壊が252戸、あと99戸は家が残った。地盤のいいところが残り、地盤の悪い村の下の部分は全滅した。災害であるから、「地震で我が家が潰れた」と話しても恥でもない。個人情報の公開について、お考えいただきたい。

(回答) 委員のご指摘には、これからそういう整理を事務的にもしていかなければいけないと思う。地域資料の寄贈については、今後、受入時に公開の条件を明確にするなど、整理の仕方を検討していきたい。

かつては誰でも戸籍、お寺の過去帳を見ることができた。

委員の任期について

〔事務局より説明〕

〔委員からの意見〕 なし